

# 路線価上昇率 栄23%

## 12年ぶり2割超 再開発の波

国税庁が1日に公表した2019年分(1月1日現在)の路線価で、県内では平均2.2%(昨年1.5%)の上昇だった。上昇は7年連続。県内20税務署の最高路線価のうち15地点が上昇、横ばいは4地点で、下落は1地点だった。



再開発計画が目白押しの栄地区(名古屋市中区で、本社機から)

税務署別の最高路線価では、名古屋市中村区名駅1丁目(名駅通り)の1104万円(上昇率10.4%)が最も高く、15年連続のトップだった。名古屋駅地区では、リニア中央新幹線の27年開業に向けた超高層ビルの建設ラッシュで就業人口が増え、飲食店や小売店の好況が続いている。上昇率のトップは、名古屋市中区栄3丁目(大津通り、808万円)の23.5%(昨年13.3%)。20%を超えたのは、リーマン・ショック前の07年(25.9%)以来12年ぶりという。東区久屋町8丁目(久屋大通り、285万円)も17.8%(同14.7%)と、栄地区の上昇が目立った。

戦前から大津通りに店を構える老舗漬物店「大和屋守口漬物本家」の米村一朗・常務取締役(72)は「名駅地区に客足を奪われてきたが、再開発の波に乗って、また活気づいてほしい」と期待を込める。近年では、買い物などで訪れる訪日外国人も増加。それに伴い、外国人に人気の宝飾店やファッションショップ

「名駅飽和状態」栄地区では、久屋大通公園の全面改修、「丸栄」の跡地や栄広場などの再開発計画が相次いで明らかになっている。大幅な上昇の背景には、こうした再開発などへの期待感があるとみられる。

不動産サービス大手「CBRE」によると、海外有名ブランドの店が並ぶ大津通りは特に人気が高く、テナントの賃料は名駅地区より高いという。不動産鑑定士の小森洋志さんは「名駅地区は飽和状態で、物件の供給が滞っている。一方、再開発計画が続々明らかになった栄地区は再評価が進んでおり、今後しばらく、勢いが続くのではないかと話している。」

### ◆ 県内税務署別の最高路線価(名古屋市内を除く)

税務署	所在地	19年	18年	変動率(%)
豊橋	豊橋市広小路1丁目駅前通り	410	400	2.5
豊田	豊田市西町1丁目西町若宮線通り	290	270	7.4
一宮	一宮市栄3丁目千歳通り	235	225	4.4
岡崎	岡崎市明大寺本町4丁目東岡崎駅前通り	210	210	0
小牧	春日井市松新町1丁目勝川駅前広場通り	200	190	5.3
刈谷	刈谷市桜町1丁目刈谷駅北口駅前広場通り	200	185	8.1
半田	東海市大田町太田川駅西歩道	140	140	0
西尾	西尾市住吉町4丁目市道花ノ木住吉11号線通り	115	115	0
尾張瀬戸	尾張旭市北本町1丁目国道363号通り	115	110	4.5
津島	蟹江町源氏4丁目西尾張中央道通り	92	92	0
新城	新城市宮ノ後能登瀬新城線通り	64	65	▼1.5

### ◆ 名古屋市内の税務署別の最高路線価

税務署	所在地	19年	18年	変動率(%)
名古屋中村	中村区名駅1丁目名駅通り	11,040	10,000	10.4
名古屋中	中区栄3丁目大津通り	8,080	6,540	23.5
名古屋東	東区久屋町8丁目久屋大通り	2,850	2,420	17.8
名古屋西	西区牛島町広井町線通り	2,770	2,380	16.4
熱田	熱田区金山町1丁目新尾頭金山線通り	1,840	1,510	21.9
千種	千種区今池1丁目広小路通り	710	650	9.2
昭和	昭和区御器所通3丁目山王通り	400	380	5.3
名古屋北	北区大曾根3丁目名鉄大曾根駅前通り	390	350	11.4
中川	中川区尾頭橋2丁目江川線通り	220	210	4.8

1平方メートルあたり、単位千円。▼はマイナス

### 新エリア

「名古屋市テーマにした新ゲーム・ワールド」

回転しながら、急降下し、ニンジャゴ屋市立稲永小の橋点の乗り物に、酒井潤弥君と、初の新エリア、初の拡張とアトラクションしめる。



360度回転しながら急降下する「フライング・ニンジャゴ」